

東松山の学級経営 スタンダード Ver.2.0

～ 子供たちの笑顔あふれる豊かな学級生活の創造を目指して ～



令和7年3月
東松山市教育委員会

発刊によせて

「すべては子供たちの学びために。すべての子供たちの学びために。」

学校はすべての子供たちが個性を発揮し、笑顔で生活できる学びの場でなくてはなりません。子供が活気にあふれ、瞳を輝かせて取り組むことのできる学級の生活づくりを目指し研鑽を積むことは、教師が大切にしなければならない重要な責務のひとつです。

本市では、平成26年度に授業の基礎・基本となる事項を「東松山の学習指導スタンダード」としてまとめました。令和4年度には、学習指導要領の改訂を受け、主体的・対話的で深い学びを中心に「東松山の学習指導スタンダード（改訂版）」を発刊し、先生方に授業力向上のための指導資料としてご活用いただきました。さらに、令和5年度には学校生活の基盤となる学級経営の充実のため、「東松山の学級経営スタンダード～年度当初版～」を発刊し、学習指導と合わせてご活用いただいています。

子供たちにとって、学校生活の基盤となる学級経営の充実は、学習活動をはじめ、様々な教育活動を行う上で重要であり、本市でも柱の1つとして推進しております。そのため、年度当初版としていた学級経営スタンダードを更新し、「東松山市の学級経営スタンダード Ver.2.0 ～子供たちの笑顔あふれる豊かな学級生活の創造を目指して～」として年間を通じて活用できるようにしました。こちらは写真や表現を更新して Ver.2.1、2.2 にしたり、内容を追加して Ver.3.0 にしたりと、実践を通してよりよいものとなるよう期待しています。

この冊子が、常に先生方の手元に置かれ、「東松山市の学習指導スタンダード」と共に、自己研鑽や校内研修で大いに活用されることを望みます。

すべての子供が「分かった」「できるようになった」「学校が楽しい」と言えるように誠心誠意取り組んでいただきたいと思います。

令和7年3月

東松山市教育委員会教育長

吉澤 勲

目 次

○発刊によせて・・・・・・・・・・・・・・・・	p.1
○学級経営の基本的な考え方・・・・・・・・	p.2
○信頼関係を築く年度当初の出会い・・・・	p.3
○朝の会・帰りの会の工夫・・・・・・・・	p.4
○学級経営の核となる学級活動の充実・・・・	p.5
○学級活動のポイント・・・・・・・・・・・・	p.6
○年度当初学級活動の3つの実践・・・・	p.8
○学級目標と個人目標の設定・・・・・・・・	p.9
○個人目標の更新・・・・・・・・・・・・	p.11
○学級経営と学習指導・・・・・・・・・・・・	p.13
○係活動と当番活動の特質・・・・・・・・	p.16
○係活動の充実・・・・・・・・・・・・	p.18
○学校生活の基盤となる教室の環境整備・・・・	p.20
○生徒指導の基礎・・・・・・・・・・・・	p.21
○行事を通じた学級経営・・・・・・・・・・・・	p.22
○保護者との連携（保護者面談の工夫）・・・・	p.25
○保護者との連携（学級懇談会の工夫）・・・・	p.26

学級経営の基本的な考え方

※年度当初版 p.2

学級経営とは、学級を基本組織として展開される教育活動の計画、実施及びその効果の評価の過程と、これに関する学級担任のすべての職務における活動の総称です。具体的には、安心・安定した学級の生活づくり、学習指導の充実、生徒指導の推進、人間関係の醸成等が挙げられます。

学級経営の内容

ア 学校教育目標、重点課題等に関する基本姿勢

学級の実態を踏まえた学級担任としての学級教育の方針「学級目標の設定」など

イ 学級における教育課程の実践・経営

教科領域等の指導充実に向けた効果的な展開など

ウ 学級における教室環境経営

教室環境構成、掲示等の計画、座席の配置、美化や安全など

エ 学級における集団経営

学級組織、児童・生徒理解、人間関係づくりや教育相談の計画、集団活動や生徒指導の構想など

オ 学級におけるその他の経営

保護者・地域等との連携、校内・学年組織の役割、学級事務など

生徒指導をめぐる学級経営上の諸問題 文部省 参照（H元．3）

教育活動が成果を上げるための大前提は「子供の理解」

「この子の得意なことは何だろう？」

「この子の課題は何だろう？」



全て教育活動の中心は「子供」

子供の理解を行うためには、実態把握が必要です。

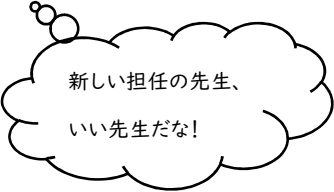
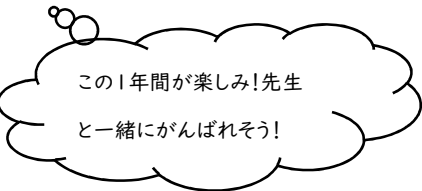
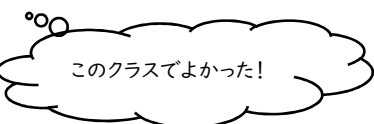
実態把握とは、「個々の能力」の把握、性格的な特徴、その子が何に興味をもっているのか、どのような友人と交流があるのか、そして、家庭環境など、様々な視点で行うことが重要です。また、発達の段階に応じた様々な発達のな特徴も見られます。日頃から学級経営の充実を図り、教師と子供の信頼関係及び子供同士の好ましい人間関係を育てるとともに、子供の理解を深めていきましょう。

信頼関係を築く年度当初の出会い

※年度当初版 p.3

子供一人一人が安心して過ごすことができ、居場所のある学級の生活づくりをするためには教師と子供、子供同士の信頼関係をベースとした学級経営を行っていく必要があります。年度当初に信頼関係を築くための取組を展開することで1年間安定した学級生活づくりをすることができます。

教師と子供の信頼関係づくり

	教師の心構え
出会いを喜び、希望を語る ～ほめてスタート～ 	☐ 出会いの場では、第一印象を大切に、一人一人の子供に笑顔で語りかけます。 ☐ 教室では、印象的な担任紹介をし、新しい担任・学級に希望をもつことができるようにします。(あいうえお作文等の特技を披露) ☐ ほめる意識をもち、前向きな声かけに心がけます。 ほめ言葉5S 「さすが、すてき、すごい、すばらしい、それでいい」
安心感の得られる学級の生活づくり 	☐ 担任の思いを伝えます。(視線、声のトーン、間のとり方) ☐ 学級の約束事を確認する時は、毅然とした態度で、一貫性をもって伝えます。 ☐ 子供の気持ちが安定して安心できる場所になるように、記録に残したり、掲示物で可視化したりします。
居場所のある学級の生活づくり 	☐ 一人一人の特性を理解しながら、声かけや支援をします。 ☐ 多様性を受け入れられる学級の生活づくりには、教師の温かい声かけがモデルになります。 (教師からの明るいあいさつ、「ありがとう」「ごめんなさい」等) ☐ 子供たちそれぞれのよさを見つけ、言葉で伝えていきます。

子供同士の信頼関係づくり

子供同士が信頼関係を築くために意図的に子供と子供をつなげていく活動を行っていきます。

【例】「ペアトーク」で関係づくり

お互いに質問したり答えたりするペアトークを朝の会などの短い時間で継続して行っていきます。安心して話をするために話の聞き方や質問の仕方も教えるとより効果的に関係性を築くことができます。

ペアトークの話題例

・最近うれしかったこと ・好きな○○ ・放課後の過ごし方 ・自分の一番のニュース

あいづちの例

・うんうん ・なるほど ・へえ ・わかるわかる ・そうなんだあ

オープンクエスチョン(思考を広げ深める質問)の例

・もう少し詳しく教えてください ・例えばどんな感じですか ・他にはありますか

朝の会・帰りの会の工夫

※年度当初版 p.4

毎日行われる朝の会や帰りの会は日直等による輪番制の当番活動として、子供たち全員が経験できるようにします。限られた時間の中で行う活動ですが、学級経営上の大切な役割を担うものとなります。単に連絡や反省の場とならないよう、教育的意義を明確にして取り組みます。

「朝の会」「帰りの会」は、学級担任が学級経営としてマネジメントする時間です

朝の会

「朝の会」は、その日の始まりの時間であり、心の交流を図る大切な時間です。今日一日を大切に過ごそうという気持ちを込めた、あいさつを交わすことから始まります。担任は確実に一人一人の子供の出席状況を確認します。アイコンタクトで健康観察を行うとともに、服装や生活態度などを把握し、声をかけることも大切です。健康観察は、表情や顔色、返事の声等にも気を付けて行います。お互いの健康状態を子供同士で知ることが仲間意識に繋がります。諸連絡や提出物の確認もありますが、効率的に行い、第1校時の授業が時刻通り始まるようにします。

帰りの会

限られた時間の中で、効率よく運営できるようにすることが大切です。一日の学校生活のよさを取り上げ、課題となることを考え、前向きな改善策を取り上げていくことが学校生活の充実と向上を図ることにつながります。

＜帰りの会の活動のポイント＞

- ⑥ 学校生活の成果を認め合う。(グループや集団としての視点を取り入れる)
- ⑦ 課題を明確にし、次の活動に生かすための改善策を考える。
(翌日へ向けた改善策を中心に取り上げる)
- ⑧ 自主的な活動を推進する。(係活動などの連絡や調整をする時間を確保する)
- ⑨ 連絡事項を確認する。(高学年や中学生は聴写してもよい)
- ⑩ 翌日への期待感を高める。(視点を明確にし、見通しをもって計画的に行う)

みんなが大切にされる＜友達の良いところの称賛＞(例)

帰りの会で、友達のよかったところを発表します。継続して行うことで自然と友達の良いところが目が行くようになり、お互いに認め合える雰囲気生まれます。「今日のMVP」などで同じ人ばかりが取り上げられたりすることがないように方法を工夫することも大切です。



話を「聞く」姿勢を育てる

話を「聞く」姿勢を育てることは、学級経営の基盤となります。「話すこと」に力点を置いた方が「主体的な学び」を促すように感じます。しかし、「自分が何を話すのか」が中心となり人の話を聞いていないことが少なくありません。聞こうとする意識がないと、人の話の内容を理解するのは難しくなります。「聞く」ことに集中すると、自分との共通点や相違点も分かり、学びになります。互いの考えをよく聞くことは、「自分もよくて、みんなもよい」考え方につながります。

「友達の話をしっかり聞きましょう。それが、**自分のため**になります。」

「自分の考えを相手に伝えましょう。それが、**みんなのため**になります。」



学級経営の核となる学級活動の充実

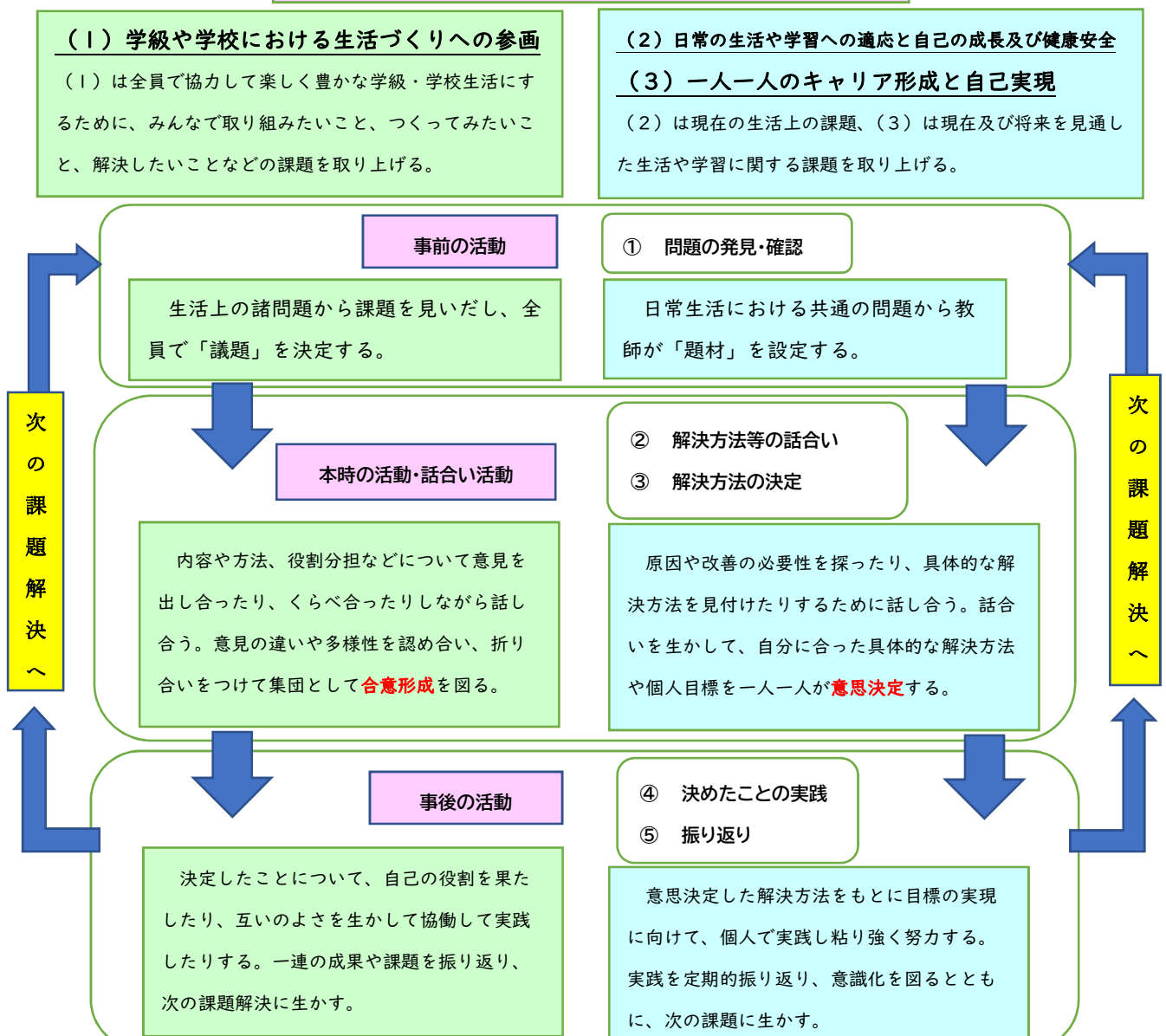
※年度当初版 p.5

学級経営は人間関係づくりが基盤となり、なかでも学級活動の果たす役割が大きくなります。学級活動を学級経営の基盤に据え、子供たちの自己実現を図っていくことが求められます。

学級活動は、教育課程上、特別活動の内容の一つに位置付けられ、週1コマ・年間35時間（小学校第1学年は34時間）の授業として設定されています。子供たちにとって、最も基本的な所属集団である学級は、学校生活の基盤となる場所であり、一人一人の居場所であってはなりません。学級経営を行う上で、学級活動の充実は人間関係の形成を図ることにつながります。

学級活動は、学校生活において最も身近で基礎的な所属集団である「学級」を基盤とした活動です。様々な集団活動を通して、学級や学校生活の中から集団や個人の課題を見だし解決するための方法や内容をみんなで話し合い、集団として「合意形成」を図り協力して実践したり、一人一人が自己の課題解決について「意思決定」し、実践したりして、よりよい人間関係を築き、学校生活の向上を図ります。

学級活動(1)と(2)(3)の学習過程(例)



参考: みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(国立教育政策研究所)

学級活動のポイント

特別活動は全ての活動の中心に話し合い活動があります。その基盤となる活動が学級活動です。学級活動の特質の違いを踏まえて指導を行っていくことが大切です。話し合い活動の質を深め、よりよい合意形成や適切な意思決定になるように指導方法の工夫・改善を図ります。

学級活動（１）・・・提案理由をもとに、意見の違いを大切にし、学級としての考えをまとめたり決めたりする。

（よりよい合意形成）

学級活動（２）（３）・・・学級での話し合いを生かして、自分の考えを広げたり、考えたりして自分に合った具体的な解決方法を意思決定し、努力できるようにする。（適切な意思決定）

<学級会（１）のポイント>

自発的、自治的な活動

教師の適切な指導の下

集団としてよりよく合意形成を図って実践する

<適切な議題設定>

- ・学級や学校の生活をよりよいものにする。
- ・学級全員に関係すること。
- ・必要感のある議題であること。

<話し合うことの設定>

- ・45分（50分）かけて話し合う価値のある内容に絞る
- ・「何をするか」「どのようにするか」「係分担はどうか」が基本となる。

<3つの段階を踏まえた展開例>

出し合う・・・自分の考えを自分で発表する。

比べ合う・・・多様な間あげを分類・整理して比べ合う。

まとめる（決める）・・・話し合いをまとめる（合意形成）。

※見方を変えたり、視点を変えたりして比較する。

※何が違うのかを理由を明確にして話し合う。

※互いの意見を理解し合う相手の立場に立って共感的に理解する。

よりよい合意形成の視点

- ・安易な多数決で結論を出さない。
- ・少数派の意見も尊重し、生かす。
- ・折り合いをつけて合意形成する。

<提案理由の明確化の工夫>

提案カードの書き方について

話し合いたいこと	自分の考えている みんなでも話し合いたいことを書く。
提案理由	今のクラスのじょうたい（いいなと思うことや こんな風にすればいいのにと思うことなど）や困 っていることを書く。
だから	上に書いたことをよくするために したいことを書く。
そうすれば	クラスがこんな風によくなるのでは、ないかな と思うことを書く。

- ・現状
- ・解決策
- ・解決後のイメージ

課題が明確になるように
「今は～です。でも、～です。
だから～したいです。
そうすることで、～になる
と思います。」

提案理由は話し合いを進めていく上で、とても重要な鍵となる。
提案理由を達成するために、この実践では何を行っていくのか。
話し合いの決定の指針となる提案理由とする。

<思考を深める板書の工夫>

提案理由やめあてに沿って、話し合いができるように板書を工夫することで、分類・整理を行い、話し合いの焦点化を図るようにすることができます。短冊を操作することで、分かりやすく分類したり、統合したりすることもできます。板書を可視化・構造化・操作化することで、児童の思考を深めていくことが大切です。

<イメージの共有化>

イメージの共有化は、よりよい合意形成を行う上で必要不可欠となります。

どの部分を話し合っているのか分かりにくい。意見が出すぎてわからなくなってきた。
本当に実現できるの？



という状況になることはよくあります。そこで、全体のイメージを共有するため、具体物を用意したり、決まっていることをくわしく決めておいたりする工夫が必要です。どこを話し合っているか分かりやすくするために、事前のプログラムを用意することで、どの部分を話し合うのか分かりやすくなるような工夫も行うことができます。活発な話し合いを進めていくと、子供たちは自分の意見と友達の意見を比べながら、まとめようとしていくようになります。しかし、意見に対して具体的なイメージがもてないことや、一部の児童はイメージできているが、全体で共有しにくい場面も多く見られるようになります。イメージを共有し、決めたいことを決めていく力を身に付けられるよう指導を行うことが大切です。

<終末の「教師の話」のポイント>

・話し合い活動に対する指導と評価

前回と比べてよかったこと、次回に向けての課題、計画委員へのねぎらい

・実践への意欲付け



<事後の活動の指導のポイント>

- ・実践でも提案理由に立ち返り、めあてをもって活動できるようにする。
- ・分担した役割ごとの進捗状況等を確認し、活動意欲を高める。
- ・実践後の振り返りにより互いのよさや頑張りを認め合う。

<学級会（２）（３）のポイント>

学級活動（２）（３）は、「集団思考を生かした個人目標の意思決定」を通して、「自己指導能力」を育てます。「自己指導能力」とは、自分から進んで学び、自分で自分を指導していく力です。また、自分から問題を発見し、自分で解決しようとする力でもあります。自発性、自主性、そして、自律性が育まれていくことが望まれます。

<強い意思決定を行うための、授業の展開>

つかむ・・・現状の問題に関する資料の提示などによって問題意識を高め、課題をつかむ。

※自己の課題が認識できるようにする。

さぐる・・・問題の原因について話し合いながら追及する。

見つける・・・解決方法を話し合って考える。※話し合うことで思考を深めたり広げたりする。

決める・・・見つけた解決方法に沿って、具体的な個人目標を決定する。

このような授業を展開していくことが、一人一人の強い意思決定に繋がると考える。

<よりよい意思決定>

- ・事前アンケートを活用し、「自己の生活上の課題を解決するという」という意識を高める。
- ・学級や小グループを活用し、多様な解決方法を考える。
- ・学級での話し合いを生かして、自分に合った具体的な目標や実践方法を意思決定する。

年度当初学級活動の3つの実践

※年度当初版 p.6

教師は、年度当初でまだ緊張感のある子供たちと豊かな関わりをもち、これから過ごす1年間に期待と希望をもてるようにします。新しい学級になり、まだ関係性が築かれていない教師と子供、子供同士が、互いのことを知ることができ、自然な関わり合いをもてるようにすることが大切です。子供たちが学級・学校生活の課題を解決するために話し合い、合意形成して協力して実践したり、意思決定したことに主体的に取り組んで自己の生活をよりよくしたり、希望や目標を前向きに過ごしていけるようにしていきます。

〇年生になって

学級活動（3）

子供たちの抱く「理想の学級生活のイメージ」を学級全員が共有します。学習や人間関係などに関する不安を解消し、期待感を高め、新しい学年での個人目標を設定していきます。（学習・生活・運動等）

目標をもって生活できるようにするために、自分の目標をしっかりと定め、反省と改善を繰り返しながら、前向きに取り組めるようにすることは、子供たちの大きな成長につながります。個人目標や学級目標について、定期的に振り返り、実践意欲の継続化を図ることも大切です。

係活動を決めよう

学級活動（1）学級会

計画委員会や係などの自治的活動の組織づくりのオリエンテーションを行います。係活動について、当番活動との違いを理解して学級活動で話し合って決めることができるようにします。学級生活を豊かにするために、自分の役割を果たせる活動の場が見つかり、自己有用感が高まります。係活動が友達づくりのきっかけになり、協力や信頼を大切に作る意識が高まります。楽しく豊かな学級生活のためには、子供たちの創意工夫ある活動が欠かせません。多様な係があることを知ることも大切です。

どうぞよろしくの会をしよう （進級お祝いの会をしよう）

学級活動（1）

学級会の活動や集団活動による実践活動をスタートします。学級会を行い、子供たちによる自発的・自治的な実践活動に取り組めるようにしていきます。例えば、背面黒板等に「学級活動コーナー」を設置し、活動計画や実践状況を掲示するなど工夫することもできます。議題の提案へつながる子供のつぶやきを見付け、助言することで、問題を発見する視点を伝えます。はじめは教師が助言したり、ときには例示したりすることも必要です。

学級目標と個人目標の設定

※年度当初版 p.7

<学級目標設定の手順>

- ① 学級目標は、学校の教育目標（目指す児童生徒像）を受けて設定する。
- ② 人格の構成要素である「知育・徳育・体育」の3つの視点で作成する。
- ③ 文末表記は、集団に個が埋没しないよう「～のクラス」ではなく、目指す子供の姿として、「～の子（生徒）」とする。
- ④ 教師の基本理念に基づき、保護者と子供たちの思いや願いも取り入れる。
- ⑤ 子供の自我関与は重視するが、子供の話し合いで決定するのではなく、教師が設定する。
- ⑥ 学級活動（3）題材「〇年生になって」で学級目標を踏まえて、個人目標を設定する。

学級目標の設定

- 「目指す児童（生徒）像」を学級目標として掲示する。（始業式から数日後に行う）

新しい学年に進級すると子供たちには「これからの1年間がどのような学校生活になるのか」「先生はどのような方針でいるのか」などの期待や不安があります。特に最高学年、あるいは中学校入学直後には、その心情は大きくなります。そこで、できるだけ早く設定する必要があるのです。

- 保護者・子供・教師の思いや願いを入れる。

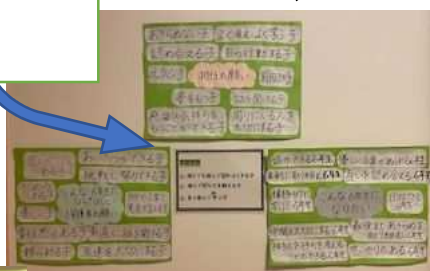
年度当初に学校（担任）の願いを子供たち・保護者に伝えます。そして、保護者会で保護者に学級目標の説明ができるように事前に保護者にアンケートをとります。さらに、子供たちの願いを把握します。知育・徳育・体育の3つの視点で作成するのが基本です。掲示にも子供たちの願い、担任・保護者の願いを合わせて盛り込みます。そして教室の側面・背面などに掲示をします。

学級目標（例）

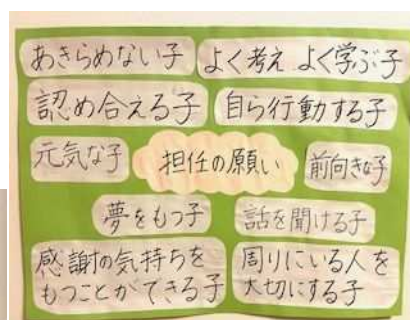
- ㊦誰とでもすすんでなかくする子
- ㊦進んでからだを鍛える子
- ㊦自ら進んでまなぶ子



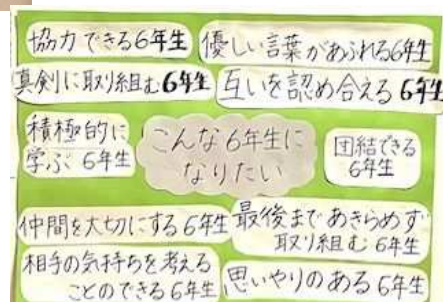
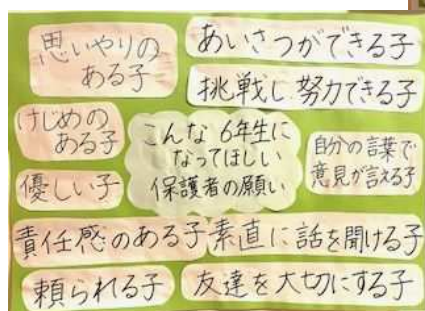
担任の願い



子供たちの願い



保護者の願い



個人目標の設定



学級目標を踏まえ、子供が自分の努力目標を設定できるようにします。個人目標は子供が自分の成長を実感できるような**行動目標**として数値等を入れて、具体的に何をするかを決めていきます。

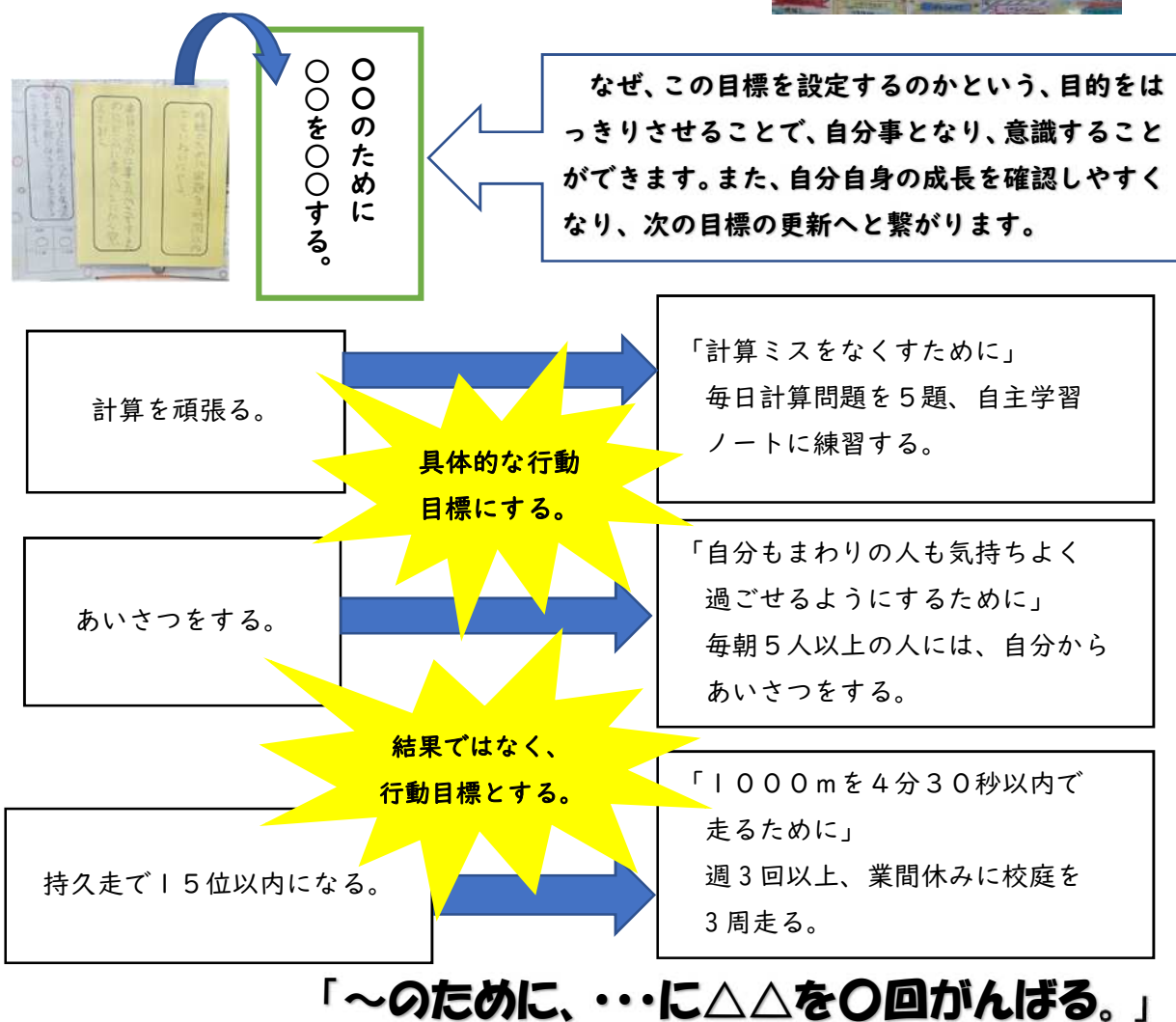
例えば、

「漢字をがんばる」だけでは具体的な行動目標になりません。

「漢字50問テストに合格するために、毎日漢字5個をノートに1行ずつ練習する。」のように設定します。



何をどのように、どのくらい行うのか。



<目標の更新>

基本的には、1か月程度で個人目標は自己評価できるようにします。そして、目標を修正し、改善することが重要です。「よくできた・できた・もう少し」という自己評価に「前の自分より頑張った」という項目を付加することで、個人内評価を重視していく方法もあります。実践できそうだと思う目標をスモールステップで設定し、成功体験を蓄積できるようにしていきます。

個人目標の更新

年度当初、学級目標を踏まえて個人目標を設定します。(p.10参照) 子供たちは個人目標を意識すると主体的に行動できるようになります。それとともに、活動をふりかえり、現状を客観的にとらえることで着実な成長につながっていきます。このため、個人目標は状況に応じて更新していくことが重要です。更新は次のようなことに留意して行うとよいでしょう。

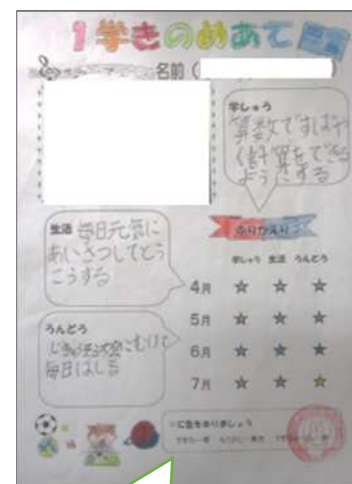
(1) 自己評価

①時期

- ・1か月程度で自己評価をしていく。目標の更新は状況に応じて随時できるようにしておく。
- ・自己評価の結果、目標がずっと変わらないという場合は、目標が現状と合っていないことがあり、意欲の低下につながることもある。このようなときは教師が相談にのり、スモールステップで成功体験を重ねられるように修正したり、新たな目標をつくり直したりするとよい。

②状況(よくできた・できた・もう少し・前の自分よりがんばった)

- ・個人の行動目標に対して、どの程度取り組めたかを客観的に見つめ直せるよう、3段階(よくできた・できた・もう少し)でふりかえりを記入する。
- ・個人内評価を重視して「前の自分よりがんばった」という項目を設けるのもよい。



ふりかえりの視点と
毎月の評価の記入欄
がある個人カード

(2) 目標設定

①行動目標

- ・小・中学校9年間を見通した成長につながるよう、個人目標を更新することを大切にする。
- ・更新の際も、子供が自分の成長を実感できるような行動目標になるように留意する。
- ・「いつ、どんなことをしていたか」を教師も具体的に伝えることで更新の意欲を高める。

②スモールステップ

- ・更新の際は実現不可能な行動目標とならないように教師が見届け、具体的な時期や回数などを入れて実行できそうか考えるように促す。
- ・更新してもスモールステップで達成感を積み重ねていける目標にし、意欲や自己効力感が高まるようにする。

＜更新の例＞

	はじめの目標	更新1回目(1か月後)	更新2回目(2か月後)
知	計算を速くするために、 毎日 <u>5回</u> ずつノートに 練習する。	計算を速くするために、 毎日 <u>7回</u> ずつノートに 練習する。	<u>漢字を多く書けるように</u> するために、毎日5回ずつ ノートに練習する。
徳	気持ちよく過ごすために、 毎朝5人以上に <u>自分から</u> あいさつする。	気持ちよく過ごすために、 毎朝5人以上に <u>自分から</u> <u>笑顔で</u> あいさつする。	<u>落ち着いて過ごすために</u> 、 授業の前は5分前に着席 する。
体	<u>逆上がり</u> ができるように、 毎日10回ずつ練習する。	<u>体力をつけるために</u> 、 校庭を毎日3周走ってから 遊ぶようにする。	持久走の <u>タイムを上げる</u> ために、校庭を1周1分 で毎日3周走る。

①更新方法

- ### ②活用方法

- ・よりよい成長につなげるため、掲示は活用することが大切になる。子供たちにとっては、自分の行動目標を意識し、達成することで自信や自尊感情につながる。教師にとっては普段の称賛や励ましの具体的な声かけにつながる。
- ・あくまでも個人の目標であり、本人の成長のための掲示という心構えも必要である。他者と比較したことで低位な目標に見えたり、更新しないことが成長していないと受け止められたりすることがないように、更新時には特に配慮して声をかける。
- ・授業参観等で保護者が見る機会には、家庭でも努力を認めて褒めてもらえるよう伝える。

The image shows a classroom wall with four large, colorful charts. The top row has two charts: '2-1 個人目標' (Individual Goals) and '1-1 假期目標' (Holiday Goals). The bottom row has two charts: '2-2 個人目標' (Individual Goals) and '1-2 假期生活目標' (Holiday Life Goals). Each chart is divided into sections with text and small drawings. To the right of the charts is a vertical strip of colorful circular markers.

中学校の例



小学校の例

12

学級経営と学習指導

学級経営と学習指導は、それぞれ別に考えるのではなく一体的に捉えていくことが大切です。埼玉県学力・学習状況調査からも、「学級経営」と「主体的・対話的で深い学び」、「学級経営」と「非認知能力」「学習方略」は相関関係があると分析されています。

つまり、子供たちが学校生活の中で多くの時間を費やす「授業」の中で、よりよい学級（互いに高め合える関係性）をつくっていくことが教師の大切な役割です。



【授業の中で学級の人間関係を深めるためのポイント】

（１）学級目標の活用

①具体的な姿を意識した励まし

授業中は教科等の目標と合わせて、学級目標も意識して指導や支援を行います。「〇〇な子（生徒）」の具体的な姿をイメージし、それを目指すことを常に意識することで教師の声かけが具体的になり、子供たちも継続して取り組めるようになります。

②子供たちの姿に応じた声かけ

「先生が見守っている」ということは、子供たちにとって励みや刺激になり安心感を与えます。そのため、できている姿、努力している姿を見取るよう留意し、その姿を言葉にして伝えます。

③共感とふりかえり

できなかったことができるようになったときは、一緒に喜び、なぜできるようになったのかを聞き、大いに称賛します。

（２）児童生徒理解を生かす授業づくり

①魅力ある導入による意欲の向上

学級集団の中には、学力差があります。低位層から高位層までの児童生徒が、主体的に学び続ける授業にするには、導入（問題場面の提示）で、「やってみたい」「できるかも」と思わせる手立てが必要です。意欲が高まると子供たちは、自ら学びだすようになります。

②学級集団で学ぶよさの価値づけ

授業の中で、子供たちが困っていることや疑問に思っていることを教師が引き出し、解決に向けてみんなで練り上げていきます。子供たちの素直な声を聴き、「困った、分からない。」と言った子のために、学級みんなで解決しようとする。ここに、学級集団で学習するよさがあります。

「困った。分からない。」と言った子供、仲間のために解決しようと動いた子供たち、双方にとって達成感がある授業を目指し、その姿が見られたときには大いに称賛します。

③教師自身の持ち味を生かした教材研究

目の前にいる子供たちの「わかった」「できた」「まだやりたい」の言葉を引き出すためには、熱意をもって、教材研究に励むことが大切です。そこに教師自身の「自分らしさ」を出すことも大切です。教師の人間性、得意なこと、教科の専門性を授業に出していくことで、子供たちは親近感を感じ、教師と子供の信頼関係も深まります。

（３）非認知能力の育成を支える教師の心構えと手立てと指導

これからの時代を生き抜いていく子供たちには、知識・技能の習得はもちろん、それにプラスして非認知能力の育成が求められます。非認知能力は、認知能力でないものを幅広く指す総称です。なかでも子供たちの生活や発達に重要なものとして「社会情緒的能力」が挙げられます。その内容は、「自分に関する領域」（自己効力感、自己制御など）、「他者に関する領域」（他者の感情や思考の理解など）、「自分と他者や集団との関係に関する領域」（人間関係、コミュニケーションなど）の３つに大別されます。

子供たちの非認知能力にどのようにアプローチしたらよいか、ここでは埼玉県学力・学習状況調査の活用例として、質問調査の項目をもとに、授業における手立てを中心にまとめました。

非認知能力と 県学調の質問項目（◇）	教師の心構え	学習場面の例（・）と 教師の手立て（□）
自己効力感 （自分はそれが実行できるという期待や自信） ◇授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている。 ◇先生が出した一番難しい問題も理解できると思う。	誰もが自分の成長を願っています。スモールステップの過程や小さな成功体験も認めて褒めていきましょう。それを見つける目を持つことが教師として大事なことです。 無理におだてるのではなく、まずは目の前でがんばっている姿を言葉にして伝えましょう。	・問題を解く場面 ・技能を習得する場面 ・体験する場面 □スモールステップとなるよう工夫し、より多くの成功体験ができるようにする。 □具体的な声かけやＩＣＴの活用で、成功した時のことをイメージできるようにする。 □失敗を認め、次の挑戦の場を用意する。
自制心 （自分の意志で感情や欲望をコントロールする） ◇家や学校で頭にきて人やものにあたった。 ◇他の子供たちが話をしているときに、その子供たちのじやまをした。	自分の怒りや負の感情を、切り替える方法を一緒に考えていくことが大切です。 例えば、時間や距離を置く、負の感情を絵や文で可視化してみるのもよい方法です。気持ちの切り替えは、難しいものです。だからこそ、少しでもコントロールしようとする様子が見られたら、そのことを褒めましょう。	・話したり聞いたりする場面 ・説明を聞いてから行動する場面 ・順番を守る場面 □学習規律が守れるように「話す場面」「聞く場面」を明確にする。 □授業の流れを可視化することで、見通しを持てるようにする。 □集団生活の中で「待つ」ことの大切さを伝える。（自分もよくて、相手もよい）

勤勉性 (やるべきことをきちんとやろうとする) ◇自分がやるべきことにはきちんと関わります。 ◇ルールや順番は守ります。	当たり前のことができることは、素晴らしいことです。そのことを取り上げて称賛し、学級全体に広めていきましょう。何事もコツコツと続けることは簡単ではありません。当たり前の行動でもそれを見ていてくれる教師がいることは、子供たちにとって励みになります。取り組んでいる姿を見届け、声をかけていきましょう。	・説明や板書をノートに書く場面 ・課題に取り組んで提出する場面 ・グループで活動する場面 □自分の学習に役立てるといった目的や整理する方法を確認し、学習内容を丁寧に記録できるようにする。 □期限までに提出できるよう、途中経過を把握し一人一人に応じた声かけをする。また適切に評価をする。 □自分の役割を確認する場をつくり、最後まで取り組めるよう励ます。
やりぬく力 (自分の目標に向かって粘り強く情熱を持って成し遂げる) ◇大きな課題をやり遂げるために、失敗をのりこえてきました。 ◇始めたことは何でも最後まで終わらせます。	「挑戦したこと」「最後までやりきったこと」を称えましょう。教師はこれができるように手立てを考えていきます。 特別活動の行事を成長の機会ととらえ、子供たちの行事後の姿を想像して計画を立てていきます。教師が先回りしすぎず、時に失敗の経験も糧になると考えましょう。	・九九や漢字の反復練習の場面 ・レポートや作品制作などの課題に取り組む場面 □習得につなげる取り組み方を提示したり、活動途中をこまめに見取って称賛したりする。 □自分の取組や努力の過程が可視化できるようにする。 □スモールステップの段階的な目標を設定し、計画性や自信を高めて最後までやりとげられるようにする。
向社会的性 (他の人や集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする) ◇誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける。 ◇年下の子たちに対して、優しくしている。	同じ環境でも、そこにいる子供たちに思いやりがあるかどうかで過ごしやすさが大きく変わります。学校全体で子供たちをみて育てる意識を大切にし、よい行動を共有しましょう。委員会や部活動など、自分が関わった子供のよい行動を担任に伝えることで褒める材料が増えていきます。「〇〇先生が褒めていた。それを聞いて私も嬉しくなった。」と声をかけることで、自信がついていきます。	・授業の準備や片付けの場面 ・学び合いの場面 ・異学年交流の場面 □思いやりのある教室の過ごしやすさについて普段から価値づけていく。 □目的をふまえた役割の大切さを確認し、作業を分担する場をつくる。 □周囲への気付き（観察、行動）を促す声かけをする。 □相手の立場や気持ちを考えてから話すことを確認し、相手に合わせた伝え方ができるようにする。

学校生活の中で「認め・励ます・褒める」のプラスの声かけが、何より大切です。

(参考)

- ・授業改善リーフ第2集「学びのR」No. 44「非認知能力について理解を深めよう」
(埼玉県教育局南部教育事務所)
- ・令和5年度埼玉県学力・学習状況調査報告書第2章〔参考資料〕学習方略や非認知能力の質問項目

係活動と当番活動の特質

※年度当初版 p.9

学級生活の向上・発展させるための係活動と、学級生活の円滑な運営のための当番の違いを意識し、組織をつくるのが大切です。両者に違いはありますが、どちらも「他者のために働く」という共通点もあります。これらの活動を通して、仲間と協力する態度や集団の一員としての自覚や責任感も育てていきましょう。

係活動と当番の違い

	【係活動】	【当番活動】
特質	「学級生活を向上・発展」	「学級生活の円滑な運営」
領域的区分	教育課程(学級活動・集団活動)	日常生活指導(当番の仕事・集団指導)
ねらい	創意工夫	手順通り・責任
形態	継続	交替(輪番)
組織等	学級会での話し合い	教師による分担

<係活動>

子供の希望を尊重して、係の所属を決めるようにします。各係の仕事に応じて教師がおおよその人数を決めておくスムーズです。

☆学級会で話し合って設定した係は、必ず誰かが所属するようにします。希望者がいなかったり、少なかったりした係については、どうしたらよいかをみんなで話し合います。

☆同じ係への希望が多過ぎる場合は、活動内容を2つに分けたり、子供が自主的に譲り合ったりできるようにします。

係の種類(例) ○本係 ○新聞係 ○生き物係 ○レクレーション係 ○バースデー係 ○歌係 等

※中学校でも、小学校と同じように学級をよりよくするために創意工夫できる係活動を行います。

教科等に関する内容のものは、当番活動とし、係活動は委員会活動を発展させるという実践もあります

発達段階による指導上の留意点

小学校			中学校
低学年	中学年	高学年	
・入門期(4月)は、一人一役で「しごとみつけ」から始める。やがて、集団活動の必要性に気付かせ、話し合って係をつくる。 ・係活動を通して、友達と仲良く、協力することの大切さを学ぶ。 ・進んで活動できるようにする。	・低学年の経験をより発展させる意図をもって、話し合って係をつくる。 ・子供の創意工夫を生かし、一人一人のよさが発揮できるようにする。 ・活動の時間を確保する。	・中学年の経験の上に立って、より発展的な活動を目指して、話し合って係をつくる。 ・自主的に活動を進めることができるようにする。 ・活動時間を確保する。	・学級の生活をより楽しく豊かにするために生徒自身が創り出す活動にする。

給食を係ごとの班で食べる等…

☆電気係、窓係など、創意工夫できない係は、当番活動として設定します。

☆学級の係全体が活性化するように、係活動コーナーやアイディアを出し合う係ポストを設置したり、朝の会や帰りの会で取組を報告し合ったりすることも効果的です。

☆中学校で教科係を設定する場合は、学習指導要領が示す係活動の趣旨を考慮し、それぞれの教科において生徒の学習生活を豊かにする取組を行う等、自主的な活動運営となるように配慮します。

<学級生活における当番活動（掃除・給食など）>

学級生活における当番活動では、子供たちが協力し、学級に貢献・寄与することの喜びを体感できるようにしていきます。当番活動は、係活動同様に他者の役に立つことで自己有用感を高められる活動です。また、集団生活を円滑に運営するために必要不可欠な活動です。取り組み方も様々な方法があるため、それぞれの長所・短所を理解した上で、学級に取り入れることが大切です。

《清掃の時間》

自己の役割を自覚して協働する意義を理解し、主体的に考えて行動することをねらいとしています。

	個人役割分担制《小学校低・中学年向き》	班役割分担制《小学校高学年・中学校向き》
掲示物		
特徴	個々の役割が明確に示されている。	子供同士で相談して、役割を決める。
長所	・自分の役割に対する責任感をもつことができる。 ・必ず経験者が同じ掃除場所にいるため、作業が円滑に行われやすい。 ・責任の所在が明確であり、教師が指導しやすい。 など	・日常の話合いの頻度が上がり、子供自身が、公平性などを考える契機となる。 ・席替えと共に班の編成メンバーが変わり、人間関係が固定しない。 など
短所	・ほぼ同じ人間関係で仕事を行うことになる。 ・交代する期間によっては、同じ掃除場所が長くなってしまう。 ・自分の役割だけを果たせばよいという気持ちが強くなりがちな面がある。 など	・話合いて役割を決めるため、人間関係が良好であることが前提となる。 ・話合いの時間を割くことになる。 ・役割の不公平さが生じないよう、掃除カードに記録するなど、教師の工夫や指導が必要となる。 など

《給食の時間》

楽しく食事をする事、健康によい食事のとり方などの指導により、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通してよりよい人間関係の形成を図ることをねらいとしています。

おかわりの扱い方を明確にする。（公平性）

小学校

中学校

準備と片付けの役割を明確にする。（協働性）



《日直》

日直は、学級生活を円滑に行うため、必要な役割となります。二人で一組として行うことを基本としており、協力し合ってよりよい生活を目指すことをねらいとしています。

年度当初につくった学級での組織を、年間を通していかに機能させるかが、学級経営の重要なポイント！

係活動の充実

係活動は、子供たちの主体的な活動をねらいとし、豊かな学校生活を創造していく活動です。その結果、学級生活を組織的に向上・発展させていきます。また、活性化するために、学期の区切りなどで係活動の再編を行うことも必要です。

（１）ポスターを活用した工夫

子供たちが休み時間などを活用して活動したいと考えた場合に、自分たちの力で活動できるような環境づくりをしておくことが教師の大切な役割です。学級会で決まった係活動を行う際、子供の創意工夫を生かし、一人一人のよさが発揮できるようにしていきます。

学級の係全体が活性化するように、係活動コーナーやアイデアを出し合うなどの係ポストを設置したり、朝の会や帰りの会で取組を報告し合ったりすることも効果的です。

互いの活動内容に関心をもち、認め合いながら、協力してよりよい学級生活つくろうとする意識が高まります。



係活動コーナーの例

- ・連絡用にホワイトボードを使ってもよい

新聞系の活動例

- ・新聞係が作成した新聞や、リクエスト用紙、今までの新聞入れなど



（２）係活動のふりかえり

係活動を行う際には「計画」「準備」「活動」「ふりかえり」のサイクルで、次の実践を子供自らが意識して活動し、それを基に再編することが大切です。

例えば「本係」では、１学期に「毎週１冊、朝読書用に本を紹介する」「１か月に１冊、マンガを発行する」という計画を立てました。その際、児童任せにならないよう、教師が意図的に関わりながら活動しました。そして、計画に沿って活動した後、ふり返りでは「紹介した本の内容は朝読書に適切であったか」「発行したマンガを読んでもらうためにはどうすべきか」を話し合い、次の活動では、紹介する本を歴史の本に絞ったり、発行するマンガにクイズを入れたりすることに決定しました。

（３）係活動の再編

本来、子供の発意によって、学級全員での話し合いによって編成されるのが係活動です。学級会で話し合いをもって全員で再編成を行うことで、その後の活動意欲を高められるようにします。再編成の時期は必ずしも決まっているわけではありませんが、夏休み明けの区切りであったり、２学期の始まりだったりを踏まえると、９月当初に再編成を行うクラスが多いという現状です。

子供たちの活動意欲を高めるため、まずは基本となる「学級会の議題」として取り上げて、クラス全員での話し合いによって再編成できるような指導の手立てを講じていくことが大切です。

□ 係活動再編成の手順

- 1 前学期などに実践してきた係活動を評価する。（評価カードなどの活用）
- 2 出された意見をまとめて、係を再構成する。
→ 継続、統合、分割、廃止、移行、新設など
- 3 各係に必要なおおむねの人数を確認する。
- 4 希望を優先しながら、各係に所属する。
- 5 係ごとに集まって、活動内容を検討する。
- 6 係のネーミングと活動計画を立案する。
- 7 月単位で活動をふり返り、活動計画を立てる。



□ 係活動再編成の具体例

分 類	1 学期の係	2 学期の係（再編成）
統 合	○レク係 ○クイズ係 ○歌係	共通するので統合します。 ○集会係
分 割	○新聞係	活動が多いので分割します。 ○かべ新聞係 ○プリント新聞係
継 続	○生き物係	○生き物係
廃 止	○落し物係	2 学期以降は各自で気を付ける
移 行	○連絡係	2 学期以降は日直の仕事にする
新 設	学級を豊かにする活動を新設します。	○イラスト係 ○学級のあゆみ係

（４）係活動の内容や活動（係活動を生徒会活動へ活かす）

小学校の間に子供たちが主体となって係活動を行っていくと、それは中学校の生徒会活動にもよい影響を与えていきます。たとえば、レク係や集会系の活動で、お互いに話し合ったり、折り合いをつけたりする活動は、中学校の自治委員の活動につながっていきます。また新聞係で、クラスや他学級へのアンケートなどの経験をする中で、中学校の広報委員としての活動が、今までの経験を基に深まっていくと考えられます。



小学校の集会活動
・係紹介の会やクラス
レクなどの運営



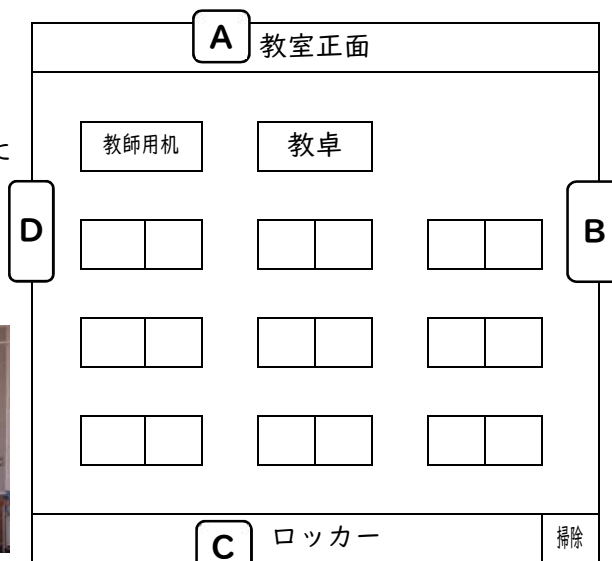
中学校の集会活動
・自治委員の集会など
の運営



※年度当初版 p.11

基本的な教室環境(例)

- ① 掲示物…学校教育目標（できる限り最小限にする）
- ② 黒板 …授業以外のものは貼らず、チョークの色使いに配慮する。（文字は白と黄色、赤は枠組み等）
- ③ 教師用机（実態や担任の意図により移動可）
- ④ 窓側付近の棚（実態に応じてカーテン等活用）



① 教室内側 …学級のあゆみ（月ごとの写真やメッセージ等）
背面に掲示しきれなかったもの、学習コーナー等

② 廊下掲示物…図工作品、硬筆・書きぞめ作品等



① 掲示物…書写の作品、学級目標、生活目標、各種たより、係活動のポスター、
各種当番表（給食・清掃・教科）、日課表等

② 背面黑板…係からのお知らせや掲示物、時間割表や週の予定表、
学級会コーナー、道徳コーナー等



① 可能な限り物品等を置かないようにする。
(非常口等、安全面も考慮して)

② 採光や換気を行うため、窓には掲示物を貼らない。

<文科省「心のバリアフリーノート」環境整備について8つの項目>（参照）

- 20

生徒指導は、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において大切な意義をもちます。一人一人の子供の個性の伸長を図りながら、将来において社会的に自己実現ができるような資質・能力を形成していくための指導・援助であり、個々の子供の「自己指導能力」の育成を目指すものです。生徒指導のねらいは、子供の中に「自己指導能力」を育てることにあります。

「自己指導能力」とは、児童生徒の深い自己理解に基づき、そのとき、その場で、どのような行動をとることが適切かについて、自らの行動を決断し、実行する力のことを言います。

<生徒指導の定義>

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために必要に応じて指導や援助を行う。

<生徒指導の目的>

生徒指導は児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

<集団指導と個別指導>

集団指導と個別指導は、集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用により、児童生徒の力を最大限に伸ばし、児童生徒が社会で自立するために必要な力を身に付けることができるようにするという指導原理に基づいて行われます。そのためには、教職員は児童生徒を十分に理解するとともに、教職員間で指導についての共通理解を図ることが必要です。

<生徒指導の実践上の視点>学級経営において基盤となる視点

(1)自己存在感の感受 (2)共感的な人間関係の育成 (3)自己決定の場の提供 (4)安全・安心な風土の醸成

参考：文科省 生徒指導提要 令和4年12月



新しいクラスで、勉強も運動も頑張っていこう。

いじめは絶対に許しません。みんなでよいクラスにしていきましょう。

きっとこのクラスなら、安心して過ごせるな。



<文科省「心のバリアフリーノート」教師の言葉かけ> (参照)

- ① 前置きして話します。(これから三つの話をします。一つ目は、二つ目は、三つ目は～)
- ② 肯定的な言葉をかけます。(「～できなかったら～しない」ではなく「～したら～しましょう」)
- ③ 言葉をイメージ化します。(「静かに廊下を歩きましょう」から「忍者になって廊下を歩きましょう」)
- ④ 具体的な指示を出します。(あっち、たくさん、ちゃんとではなく、目的や終点、量や回数の明確化)
- ⑤ 語調に変化をつけます。(声のトーン、抑揚、速さの変化への配慮)
- ⑥ 非言語動作を活用します。(アイコンタクト、OKサイン、動作やアクションの活用)
- ⑦ 繰り返しを活用します。(子供の発言を繰り返すことによる受容)
- ⑧ よい行為を具体的に褒めます。(「〇〇がよくできていましたね」といった具体的な行為の称賛)

行事を通じた学級経営

学級経営を進めていくにあたって、各教科等の授業だけでなく学校行事もよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるために大切な場となります。ここでは子供が学校行事に主体的に取り組むために、教師が大切にしたいことを紹介します。

I 子供の意欲を高めるオリエンテーション

学校行事のねらい、育てたい資質・能力、育てたい子供の具体的な姿を明らかにして指導をします。具体的に5つの場面を紹介します。

(1) 安全性

子供が主体的に安全に気を付けて活動できるような「安全性」を学ぶ場を設定します。

<例>①「交通安全教室」

自らの安全を確保するためにどんな行動をすべきかについて体験するとともに、自らの安全が多くの方の見守りによって確保されていることを学びます。



交通安全教室

<例>②「避難訓練」

地震、火災、不審者の侵入など、平穏な学校生活を脅かす事態が発生した際、教師が不在の場合があることも踏まえ、とっさの出来事に備えて、子供だけでも行動できるよう実践的に学びます。

(2) 社会性

多様な他者と関わり、協力して活動する場面を意図的に取り入れて、「社会性」を学ぶ場を設定します。

<例>①「運動会・体育祭」

集団で取り組む表現種目については、学年（小学校では低中高ブロック）内での協力が何よりも大切です。「運動会（体育祭）でよりよい学級をつくっていくためにどんな活動を進めていくのか。」など、子供たちが自ら考え、行動する」場を提供します。その中で、子供たちがお互いに助言し合う場面も工夫して設定します。行事の後の振り返りでは、競技の結果だけでなく、子供同士が協力して達成できたことを前向きに評価します。



体育祭

<例>②「合唱コンクール」「音楽会」

練習の中で、お互いの表現を受け取り、自分の意見や感情を的確に伝えることで、対人関係を良好なものにし自己肯定感を高める工夫をします。また、集団表現による感動体験を共有することで、互いに努力を認め合いながら協力する心や、感動する心などの豊かな人間性を育てていきます。

（３）主体性

子供自ら選択して「主体性」をもって活動する場面を設定します。

<例>①「系の活動・当番の仕事」

自分自身に任された仕事に取り組ませることによって責任感や物事をやり抜く力を育てます。また、取組の中で自分のよさを友だちから受け入れられたり、認められたりして、自信をもって自分の力を発揮できるような自己肯定感を育てます。注意点として、小学校低学年では、教師が主導性を発揮しつつ、子供一人一人が学級内の友人たちと協力して成功体験を得られるように工夫することが大切です。

<例>②「修学旅行」

行動班でのコース選択において、「コースの設定のポイント」についての事前確認が大切です。上で自分たちが出かけたい寺社、名所等を行動班内で決めますが、グループ内で適切な合意形成がされているか（特定の子供の意見に流されていないか）見守る必要があります。



行事ごとに一人一人のふり返りを
掲示物に生かした例

（４）公共性

体験活動は、実社会と関わる場が多いことから、集団のルールや約束を守るという「公共性」を学ぶ工夫をします。

<例>①「遠足などの校外学習」

外部の方に質問をする際のマナー、礼儀等、事前の学習でしっかりと学ぶ必要があります。また、集団で施設に移動する際のルールの確認、移動時の交通ルールの順守など、子供たちの間でもお互いに声掛けができるように確認することが大切です。

（５）感性・表現力

体験活動は、五感を通じて、「感性」を高めることを意識して活動を展開することによって充実した活動になるように工夫します。また、体験したことを自分なりの言葉や文章で相手に伝え、「表現力」を高めることが確かな学びになるように工夫します。

<例>①「幼保小連携のお祭り」

地域の幼稚園・保育園の園児との交流を行う取組を実施する場合、良きお兄さん、お姉さんとして園児が楽しめるような取組をする必要があります。一緒に仲良く遊ぶためには園児に対してどんな接し方をする必要があるか、事前に指導を行ったうえで子供の取組を見守る必要があります。



幼保小連携のお祭り

<例>②「始業式・終業式」

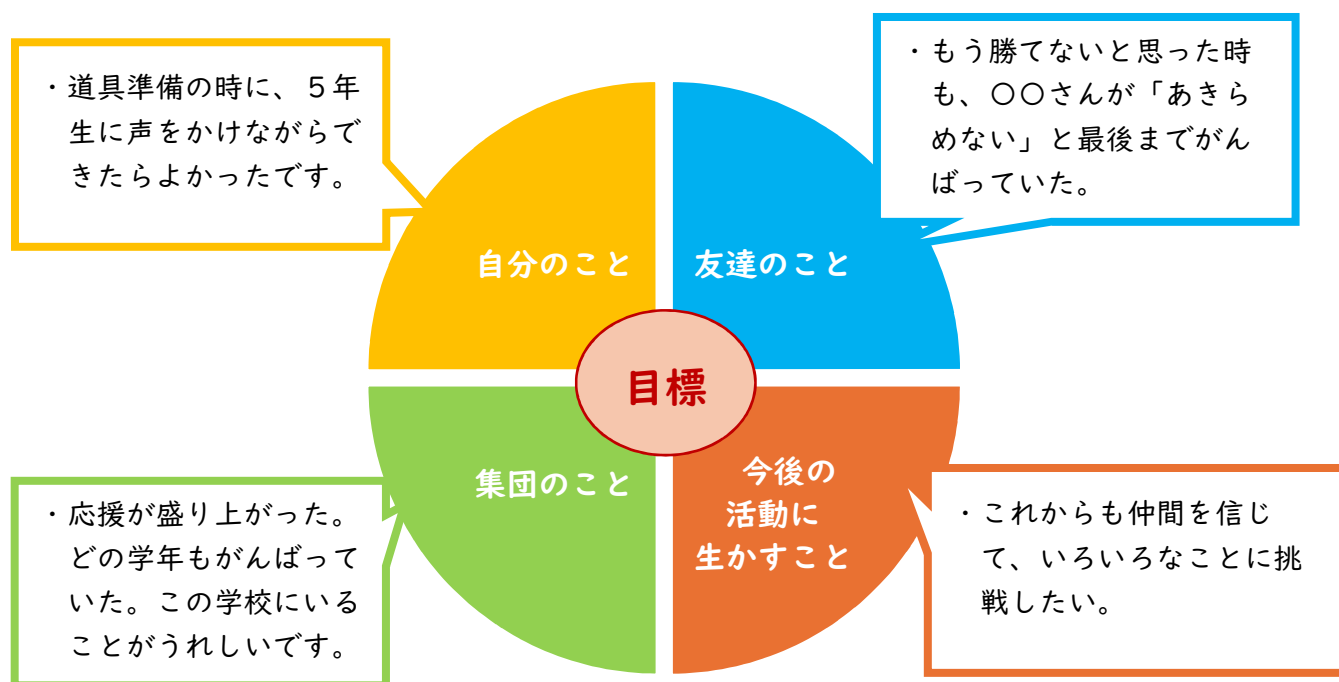
全校児童生徒が一同に会する式に参加をする事で、厳肅な雰囲気を感じ取ることができます。また、式の中での児童生徒代表の作文を聞き、式後の学級活動で、子供それぞれがその学期の決意や振り返りを行い、自分自身を高めていく工夫をしていきます。

2 成長を確かめ、次につなげる事後指導を重視

振り返りをするときには大切なことは、事前に立てた自分やみんなの目標にどれだけ近づけたのか、自分は何を学んだのか、この体験を次の学習にどう生かすかなど、振り返る視点を予め子供たちに示しておくことです。

(1) 振り返る視点（例 運動会・体育祭）

当日だけでなく、一連の活動となるようにするために、各活動を振り返る視点も大切です。それが活動のよさと課題を見付け、感謝の気持ちや、もっとがんばりたいという気持ちにつながります。



(参考)

- ・文部科学省／国立教育政策研究所 教育課程研究センター，特別活動資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)，文溪堂，2019年1月

(2) 振り返ったことをまとめて、生活の中に生かす

事前指導で立てた目標に沿って振り返りを行います。学校行事の記録のファイルを事前指導や普段のファイルを事前指導や普段の練習で少しずつ書きためておくと、振り返りが具体的なものとなり、自分と自分たちの成長を確認することで、これからの生活に生かすことができます。



④ 今回の川越校外学習を経て、学んだことや気づいたこと、考えさせられたことなどを書こう。また、次のスキー合宿や来年の修学旅行に向けて、これからの生活でどんなことを心がけていくかを考えよう。

今回の川越校外学習で、友達との協力や公共の場でのマナーを学びました。他人にはめいやくをかけるおれいけなな事など、あたりまえですが、大切なことを学びました。スキー合宿などでは、もっとしっかり寝つきを入れて、もっと楽しみたいですね。みんなと協力して、けがや事故が自分から原因にならないように、普段の生活から落ちついて生活できるように心がけたいです。

保護者との連携（保護者面談の工夫）

学校と保護者をつなぐ大切な行事には、「学級懇談会」の他に、「保護者面談」もあります。学校生活の充実を図る小学校と、さらに進路選択を見据えた中学校とでは、保護者面談の内容にもちがいがありますが、基本的には以下の点に留意するとよいでしょう。個々の実情に応じて丁寧に面談を行うことが大切です。

（１）会場としての場の工夫

①待ち時間

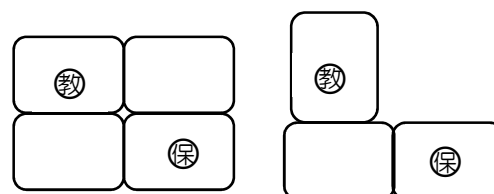
面談は定刻に始められるように心掛けましょう。ただし、場合によっては、前の面談が延びてしまうこともありえます。また、保護者は、早めに来校する場合があります。そこで、待ち時間を有意義に過ごしてもらえそうなひと工夫をおすすめします。

- （例）・子供たちの作品や写真といった学校での活動の様子がわかるものの掲示
- ・子育てのヒントになるような書籍の紹介

②座席配置の工夫

面談に限らず、人と話をする際に常に目線が合う状態というのは、圧迫感があり緊張感が高まります。そのため、思っていることが話づらくなる場合があります。短時間の保護者面談を有意義なものにするため、座席の配置を保護者とななめに向かい合うように工夫します。

右の図のように配置すると、保護者の荷物置き場も確保できます。また、廊下で待機している保護者に面談の内容が漏れないよう、入口からの距離に注意するなどの配慮も必要です。



【座席の配置例】

（２）面談での留意点

①聴く姿勢

面談は担任の先生と自分の子供について話せる減多にない機会です。保護者の中には、話したいことがたくさんある方もいるかもしれません。そこで、まずは保護者の話を聴くことを優先します。この時、うなずいたり、体の向きを保護者に向けたりするといった非言語の面を意識し、保護者に安心感を与えましょう。

②話す内容

事前に児童生徒の状況を個々にまとめておきます。子供のよい点やがんばりを伝えることが重要です。通知表の所見は詳しく書ききれないことでも、面談であれば具体的に伝えられ、それに対する保護者の意見も聞くことができます。

また、課題点をどうしても伝えたい場合には、現段階できている部分を褒め、その上でさらに伸ばしたほうがよい点として話します。学校での支援策についても伝えるなど、保護者に自分の子供が否定されているという印象を与えないよう心掛けます。

さらに面談の前に、子供たちに学校生活についてのアンケートを取っておくことも効果的です。これから、教師が見落としている情報を得られることがあります。

（３）面談後の対応

保護者から得た情報をもとに、子供たちにどのような支援をしたら効果的なのか考えます。面談で保護者と課題を共有し、支援策を練ることができたならば、連携が継続できるよう面談後にも定期的に連絡を取り合います。

面談で保護者から質問や要望を受けた場合、学校全体に関わることなど、その場で分からないことがあれば、「申し訳ありませんが、すぐに返事ができないので、確認して後ほどお答えします。」と正直に伝えます。その場しのぎの発言で誤った回答をしないよう注意しましょう。その上で、管理職や学年主任に相談し、迅速に対応します。



保護者との連携（学級懇談会の工夫）

授業参観の際に行う「学級懇談会」は、学校と保護者をつなぐ大切な行事です。そして、教師と保護者の信頼関係を構築する絶好の機会でもあります。教師の教育観や人間性、学級経営方針についても理解してもらえるような場にすることが求められます。「学級懇談会」の特質を踏まえ、次のような点について確認するとよいでしょう。

（１）会場としての場の工夫

①受付や入口の配慮

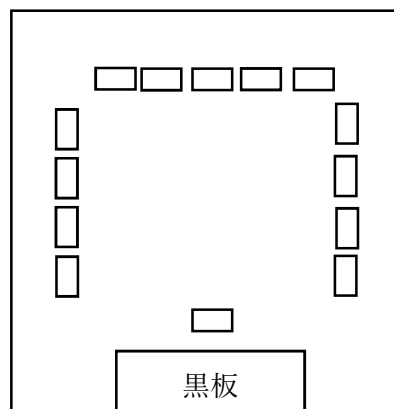
受付にはご来校への感謝と案内が記載されている掲示物を用意します。また、授業参観と懇談会という項目が入った名簿と筆記用具を準備します。懇談会に参加できない保護者もいるため、出欠席を確認しましょう。花を飾ると場が明るくなります。

②座席配置の工夫

コの字型にすると、保護者同士の顔を見ながら懇談することができます。また、座席の上に子供用ネームプレートを置くと、自席を迷わずに着座することができます。子供の名前と保護者への感謝のメッセージを書いたプレートが子供が作成すると、保護者も来校する価値を見出すことができます。

③教室掲示

授業参観・懇談会や学校公開の度に掲示物が新しくなっているか確認しましょう。また、子供が作成した掲示物が全員そろっているかも確認する必要があります。事前に学年で同様の掲示になることを心がけましょう。



教室レイアウト↑

（２）配付資料の作成

①学級の様子

口頭や資料で伝えるだけでなく、写真や動画等スライドを用意したり、具体物を準備したりすることも効果的です。資料を読めば分かる内容以上のものを用意できると、学級懇談会が有意義なものとなります。

②教育情報

学年の発達段階に応じた情報を提供しましょう。また、保護者の関心が高い時事的な教育問題についても専門家として情報を提供してもよいでしょう。

学年から保護者へのお願いについては、わかりやすいよう項目立てて伝えたり、写真やデータとして提供したりする工夫が大切です。



（３）会の運営の工夫

①運営の計画

次第は学年で相談し、管理職へ起案します。また、保護者が司会進行役となる場合は、事前に保護者に連絡して内容を伝えておきましょう。

②アイスブレイク（例：「アドジャン」のかけ声で指を出し合い、その合計でお題を決めて順に話をする）

自己紹介の際には、子供の名前と長所等を紹介することが考えられます。となり同士で紹介し合った後、他己紹介するなどの工夫をしてもよいです。学年が上がると顔見知りになるため、趣味を紹介するといった工夫で保護者同士がさらに交流しやすくなります。

③伝達事項の伝え方

懇談会資料は、欠席した方にも必要最低限の情報が伝わるように作成します。項目だけでなく、内容を簡略化して載せるように心がけましょう。

④保護者同士の交流（学級懇談のテーマ）

発達段階に応じた内容にしましょう。スマートフォンやゲームとの付き合い方やお金の使い方等、保護者の関心が高いテーマを取り上げると効果的です。